

令和5年度 第5回

日南市教育委員会

会議録

令和5年7月27日(木) 午後3時から
日南市役所・ふれあい健やかセンター3階応接室

- 1 会議の名称 令和５年度教育委員会 第５回会議（定例）
- 2 会議日時 令和５年７月２７日（木）
午後３時００分から午後４時まで
- 3 出欠確認
 - （１）出席委員 都甲政文 黒木由香、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - （２）事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
生涯学習課長
学校教育課管理係長
学校教育課管理係主査
- 4 場所 日南市役所・ふれあい健やかセンター３階応接室
- 5 傍聴者 ０名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和５年度第５回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員５名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【田中部長】
「事務局は、全員出席です。」
- 8 活動報告
 - （１）教育長活動報告
【都甲教育長】
・６月３０日、熱中症の標語コンテスト表彰式がありました。これはですね、日南市が連携協定を結んでいます大塚製薬、あそこの健康推進事業の一環で、熱中症予防の標語コンテストが行われまして、市内の８校から９８人の応募がありました。その表彰式に市長とともに

参加したんですけれども、例えば市長賞はですね「暑い夏 帽子とポカリで 乗り越えよ」ですね、教育長賞は「でげあちい その一言と 飲む一口」、こういうふうに熱中症予防や暑さに対する8人の児童生徒の力作がそろいまして表彰されました。賞品はもちろんポカリスエット24本入一箱とかですね、素晴らしい賞品もいただきまして、Aコープなんかもですね賞品とか出していただきまして、子ども達も非常に取り組みも良かったみたいです。

・7月4日、第73回“社会を明るくする運動”内閣総理大臣メッセージ伝達式がございました。これは昨年子ども達が総理大臣のメッセージを、市役所で市長に手渡すことを始めたんですけど、今年は油津中学校の生徒代表2名がしっかりと読み上げて市長にメッセージを手渡してくれました。

・7月5日、第4回の校長会でした。夏休み前の確認事項を周知したわけなんですけど、新型コロナの時にですね、リモートの校長会をやったわけなんですけど、それを受けて、一月おきにリモートでやろうと思ってたんですが、校長先生方から対面がいいという話があって、もう一回確認しましたらやっぱり対面を望む声が結構ありましたので、今回、8月の第5回からもう対面にすると、基本的にですねそういうふうになりました。

・7月9日、飢肥の五百禰神社っていうんですけど、鳥居の落慶式に行きました。これ東京都在住の伊東家の分家なんですけど末裔の方で、皮膚科をされています伊東優さんという方がずっと墓参りをされていて、鳥居も傷んでいるということで何と660万円ほど寄附をくださいまして、立派な御影石の鳥居が出来上がりました。寄附をいただいた伊東さんは家族4人で奥さんとお嬢さん2人を連れておいでになってですね、落慶式では田ノ上八幡神社の神楽があつたりとか、泰平踊りの披露とかしたりですね、しっかり落慶式をさせていただきました。

・7月10日、19日、私は12日は新型コロナで行ってないんですけど、単独訪問、私は細田小学校と南郷小学校に行かせていただきました。それぞれの学校の課題とかを聞きながら意見交換ができました。また後で、皆さんの各学校の意見をお聞かせください。

・7月19日から20日、校長を呼んでの中間ミーティングを行いました。学校経営の状況を聞いたんですけど、新型コロナ後を見据えた学校経営をですね各学校行っておりまして、どの学校も概ね順調にですね1学期を終えられたようでありました。

・7月26日、県民スポーツ祭、昔の県民大会ですね、その日南選手団の報告会がありました。これ新型コロナがあつたものですから4年ぶりに開催されたわけなんですけど、報告会とその後懇親会もあつたわけなんですけど、成績優秀だった団体と個人の報告があつたりとか、その他に対してもお互いの健闘をたたえ合つたりしました。懇親会でですね、個々の競技団体のスピーチがあつたわけなんですけど、それぞれの現状とか競技に対する熱い思いが語られてですね、非常に盛り上がった会議でありました。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

7月10日に細田小学校の学校訪問に伺いました。不登校児童に関してのお話を伺った

んですけど、それぞれの理由はあるようなんですが、中でも保護者の意向として授業を受けに来ていない児童もおられるようです。保護者も学校に行かせたいという思いがあるのであれば学校と同じ方向で働きかけができるのではないかなと思うんですけど、ここが異なると時間はかかるかもしれませんが、引き続き親御さん達との話し合いをですね続けていただきたいなと感じました。

あと、7月19日に南郷小学校の学校訪問に伺いました。あらゆる面に対してPTAと連携しながら活動を行えるように感じたんですけど、中でもPTAの組織の中に学力向上委員会という学年部の組織が設置されていて、家庭学習の取り組み方法も学校とPTAとの連携を取りながら行われているようです。このような活動を通して親御さん達との意識もですね良い方向に向かうのではないかなと感じたところでした。

それ以外に、7月11日に国民スポーツ大会準備委員会の総会、あと7月14日に赤十字日南地区理事会、7月18日に学校給食試食会で油津小学校に行きました。また、7月21日に共同募金委員会に参加させていただきました。

【八木委員】

7月10日に細田小に学校訪問させていただきました。小規模校の利点を生かした学校での、職員の方々と組んで学校経営していくというところを感じました。また、先程別府委員が言われましたように不登校についてやっぱり数値だけでは見えない事情っていうのが本当に色々あるんだなということを考えさせられました。その中で先生達がしっかり取り組んでいらっしゃいました。

それから、7月20日に宮崎県市町村教育委員会の連合会総会に佐藤委員と2人で参加させていただきました。県の教育長から宮崎県教育基本計画についてパンフレットがあるんですけど、7つの目標と19の施策についてお財布を見ながらしっかり進めていきたいというお話がありました。

その後に講演会がありまして、宮崎市のどんぐりこども診療所院長の糸数智美氏の「デジタル社会を生きる子供たち 子どもの心と体を守るために」ということで講演がありました。内容をちょっと話しますと、ネット依存症の子どもが中高生で93万人、5年間で倍増していると。休みの日は大体4時間ゲームで、若者の7割がメディア漬けになっていて、そのネットは自己肯定の場であり、自己実現の場、多様な人との出会いの場になっていて本当にいい場所になっているという話でした。

その中で一番流行っているゲーム、フォートナイトってご存じですか。その動画を見せていただきまして、その影響、電子面での影響ってすごく目に来るらしく、テレビの200倍ぐらいの光を浴びるので、間歇性斜視、片っ方の目しか使わないから片方の目が寄る。私もそういう子を見たことがあるんですけど、そういう子どもがすごく乳幼児にも増えていると。あとは睡眠障害とか朝起きてこない起立性の障害っていいですか、増えていると。また、乳幼児学童期から、怒る泣く叫ぶ暴れる等の興奮体系が不足してて、興奮のコントロールができない子どもがすごく増えているっていう話もあります。やっぱりメデ

ィアリテラシーの教育が本当に何か必要になっていくんではないかなと思いました。

それから、教育委員会の活動ではないんですけど、「A Iと子どもと読書」という講演会に参加しまして、児童文学評論家の赤木かんこさんのお話を聞きました。その中で彼女は子どもが読み継がれている本とそれから文化についてとても詳しくてですね、いろんな話を聞いたんですけど、今の一番主流の小説って、なろう系ってご存じですか。なろう系って『小説家になろう』っていう小説投稿サイトからもらった言葉なんですけど、昔は元に戻ってほっとするというそういう物語が多かったんですけど、今は異世界に転生するっていう初めて聞いたんですけど、悪役令嬢、追放もの、ざまあ系わかりますか、ざまあ系ってのは、乙女ゲーム転生ものだそうです。そういうものが主流で、今はS Fとかファンタジーとかもそういうものを書けない時代になってて、ハリーポッターとかなんかすごく流行ってるようなんですけど、本は全く動いていないそうです。いろんなものが、かいつゾロリとかも幼稚園生が今読んで、小学生は大人もの、そういうものが必要な時代になってるという話を聞きました。

あと、ロボットが新しいところですかね。知らなかったんですが、その動画を見せていただいて本当に驚きました。1年1年アトラスっていうロボットが進化するとか、動画で見られるんですけどもう本当にすごいんですよ、帰って動画見られてください。なんかそういう時代が本当に今来ている、その間の議会でもチャットG P Tの取扱いについて質問があったと思うんですけど、これは全員が検索して調べ学習に使う時代はもう来ていると思いました。

だから、やっぱりそういうものについてもデジタルサービス利用教育がすごい重要になったくる時代で、それに私達がついていかなきゃいけないって本当に大変だなと痛感しました。

それと、給食の試食会の時に小学校4年生が、こないだも話出ましたけど入学して初めて対面で給食を食べると、やっぱりそれがちょっとびっくり、驚きというか、会話をするっていうのはすごい大事なんで、これからそういうなんて言うかな、もうちょっと子ども達に大事な部分っていうのも学ばせるような現場であればいいのかなと思いました。

【黒木委員】

12日の酒谷小学校の学校訪問に行かせていただきました。久しぶりに行ったんですけど、やっぱり少人数だになっていうところで酒谷小の良さをまた改めて見させていただいたんですけど、I C Tが入ったことで、少人数でも有効的に使って、去年の記録と今年の自分を照らし合わせてその同じ学年でどういうふうを考えていたとかそのデータを、先生達がペーパーで取らずにタブレットでデータを上手に活用して、人数が少ない分そのデータで授業の考え方だったりそういったものを照合していくっていうやり方であったり、先生方のその取り組みの工夫がものすごく感じられた学校訪問でした。

働き方改革についても、いろんな先生達の取り組みも本当に一生懸命熱心に一つ一つ考えられてるなって感じて、少ない学校で有効的に時間と内容を考えながらやってるん

だなと感じたんですけど、ただやっぱり、放課後子ども教室というか、その子供さんの誘致はすごく前向きに取り組まれてるんですけど、どうしても放課後の子どもの預かりができないからちょっと酒谷が行きづらいかなってという声もあるらしく、そういった今後の課題っていうのも見受けられた学校訪問でした。

あと一つ、18日の給食の試食会も実際に子ども達と一緒に食べて、給食の必要性だったり、給食で学んでこういうことを学んだなということを改めて感じたので、また、毎年こういった体験ができると、子ども達に寄り添った新しいこんなふうにしたらいんじゃないかっていうことも生まれてくるんじゃないかなと思って、ぜひまた来年と言わず今年でもできればなと。子ども達と一緒にっているのが、学校訪問でも子ども達の授業を見た方がいいなと思うのと一緒に、給食もしっかりと一緒に食べてよかったなと思いました。

【佐藤委員】

皆さんが大方話されましたが、給食試食会も学校訪問も、それから総会、どれもこれもちょっと学びが多くてですね、特に印象深かったのが酒谷小で、違う時間が流れてるっていうかですよ、確かにその子ども達同士の意見交換とか学び合いとかというのはなかなか、難しいということあるんですけど、一人一人の個性とか考え方の特性とかに応じて先生とやりとりをしながら授業ができてるということと、環境的に非常にのびのびとゆったりとですね過ごせてるっていうのを思いながらメディアの話を聞くとですよ、やっぱりいろんなAIとかなんかでも本当に効率的にすぐ答えがでて悩む間もなく出てくると、なんかこう時間を短く効率的にやるのがいいっていうような中で、本当それで子ども達育っていいんだらうかっていうのもまた感じてですね、だからあのような特認校の財産をですよ、何か上手く活用できると素晴らしいんじゃないかと思ってたところに、昨日ちょうど卒園生の保護者と話す機会があってですね、その子どもさんが3人いらっしゃるんですけど、やっぱりそれぞれ発達障害の認定下りている子どもさんもいて、小学生中学生なんですけど、居場所がないと放課後。数的にはちょっと微妙で事業者さんも3つぐらいあるから数で振り分けると何とかしているところもあるのかもしれないけど、やっぱりその子に合う合わないっているのがあるわけですね。だからやっぱ合うところはないというような話もされてるんですよ。そしたら、鶴戸小とか小学校中学校入ればですね、そういうところ行けばいいんじゃないかなとそこまでは言いませんでしたけど、送り迎えとかいろいろな難しいところがさっき言われたようなですね、その放課後の預かりとかそういう課題はあるんですけど、何かそこをうまくクリアできると、その新しい場所って簡単には作れないからですよ、その学校資源をうまく活用できると、また幸せになる子がいっぱいいるんじゃないかなと思ったところでした。

【都甲教育長】

今話題に挙がった酒谷小学校ですけど、校長がミーティングした時に、本来3人が6人

だったわけですね。特認校で地域の方が非常に喜んで、何と自治会長さん達が朝の登校指導に立つわって出てきちゃったらしいんですよ。だから、下降気味だった地域の、なんかこう学校押すような力がまた向いてきたっていうことで、子どもの力って大きくなってですね、やっぱりそこら辺で、今度は校長としては3人が6人に増えて、お互いに意見を言い合ったり、そういうのが出来るようになって、それが2人になったらできるかってそうでもないの、まだ6人になってもまだまだあの子達にとっては手厚すぎるところがあるので、やっぱり何かしら意図的にハードルを作ってやって育てていく必要があるというふうに言っていました。ですから、同じような学校があるので、佐藤委員がおっしゃったようにうまく本当に選んでもらって、それぞれの学校の特色があるので、その子に合ったところですよ、やっぱりできればなと思うんですけどね。まだまだその手当としてはなかなか教育委員会がそういうのに対して、例えば送り迎えとかできないんですけど、そういうところは親御さんとのやっぱりね、頑張りを期待しなきゃいけないんですけど、何かしらそういう形で本来の子ども達の力を伸ばすべき環境に置かせてやることに向けられなと思ってですね。そういうのも含めて今回単独訪問がまた始まったわけですけど、それがやっぱりありますね。いろんな問題とか一生懸命やっていますけど。

また、2学期以降単独訪問がありますので、またそういう視点でですね見ていただければありがたいなと思います。

9 前回の議事録承認

第3回の議事録について了承

10 議題について

協議1 ふれあいコミュニケーションについて

(蛭原主査) (都甲教育長)	ふれあいコミュニケーションについて説明。 何か所か団体挙げてもらったんですけど、今回は児童民生委員との意見交換ってことでよろしいでしょうか。 また、日程等については先ほどありましたように調整させていただきたいと思います。
-------------------	--

11 報告について

報告1 市議会定例会報告（6月議会）について

(田中部長)	市議会定例会報告（6月議会）について説明。
--------	-----------------------

(都甲教育長)

子宮頸がんワクチンについてはですね、鈴木議員が、ご自分が医療従事者でもありますので非常に丁寧に説明してくれました。そういうのもあって、早速校長会でですね、学校のスタンスとしては周知することだって、ワクチンを打つということはこういうメリットデメリット含めてですね、だから、あくまで決めるのは保護者であるということで、校長、先生達にはこども課がその辺りはやっていくので、もしこういうね、説明とか欲しかったらこども課に直接連絡してやってくださいという話はしました。

あとは心の育み方っていうのは、柿原議員が動物のこととか言われて、そこら辺から入ったわけですけど、それについてはしっかり言わせていただきました。それからチャットGPT生成やってますが、これについてはまだまだその出たばかりで、この議会の後文科省からガイドラインが出ましたので、今後どうしていくかってことなんですけど、そういうガイドラインを基にいろんなことを研究していきたいなと思ってます。

あと、プールについては、いろいろ調べたらですね、過去には出たことないですねこの質問は。私もびっくりっていうかその今まで出てなかったのも、ただやっぱり学校にプールは必ず置かなくていいってことじゃないみたいな。あの後すぐ朝日新聞に出てですね、やっぱりプールの問題になってるということで、ヤマハの子会社がプールを一手に作ってるとこあったらしいんですけど、プールを作るところが減ってきているもんだからもうやめたらしいんですよ。

ですから、もちろんプールの授業ってのは子ども達の泳力をつけないといけないし大事なんですけど、今後はどうしてもプールっていうのは施設なもので、校舎とはまた違うんですね扱いがですね。だから、いろんなこと考えながら、このプールについてはもちろん南郷小・中もはじめとして考えていく必要があるのかなという思いでした。この前、ちょっと南郷小とかにも行ったんですけど、やっぱりさすがに 50 年経ってきていろんなところは傷んでるんですけども、その中でどう使っていけばいいのかってことで考えていきたいなと思っています。

今後の子どもの数の数のこと考えると、例えばですよ、将来的にはどこか1校をぴしゃっと整備して、よそからバスで連れてきてやるかですね、そういうことも出てくるのかなという感じですかね。

ですから次年度以降はそのプールの様子を見ながらできるだけ支障のないようにやっていくっていうことになると思います。

(佐藤委員)	トイレ関係とかの質問はもう出ないんですね。
(都甲教育長)	それはわかりません。また出ることもあるんで、ある程度のトイレの改修はやったんですよ、ここ2、3年かけてやったんですよ、力入れて。
(佐藤委員)	大事なことだと思うんですよ、うちの息子はトイレが綺麗な学校を選びました。何を見てきたかという、トイレが綺麗かどうか。やっぱ大事なことだと。
(都甲教育長)	そうですね、以前に比べたら本当綺麗にしてもらってますよ子ども達には。だから、なかなかそのトイレの数も多いので、全てっていうところまでいかないんですけども、ある程度やらせてもらってるというところですよ。
(佐藤委員)	大人として子ども大事にするとなるとですよ、トイレとか大事なと。
(都甲教育長)	そうですね、そこら辺からまた子ども達も大事に使うとかいうふうに出てくるし。 よろしいでしょうか。

12 その他

(1) 8月行事予定について

【都甲教育長】

8月は、教育委員の皆さんにも出ていただくことがあると思いますけど、お時間あればまたよろしくお願いします。

今ちょっと出なかったんですけど、8月の8日にですね、ALTのクリスとブライアンの2人が4年の任期を終えてですね、いよいよ離れます。寂しいですけど。

また、新しい人は8月中に来ます。男性2人が来る予定です。

(2) 第6回 教育委員会会議（定例）

- ① 日時 令和5年8月24日（水） 午後3時から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室7

(3) 総合教育会議

- ① 日時 令和5年8月24日（木）午後1時30分から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室7

【田中部長】

議題の方が幼保小連携接続推進体制整備事業と日南市立小中学校における働き方改革についてお話をさせていただきたいと思います。この幼保小連携接続推進体

制整備事業が、今年度から委託を受けまして、日南市で今年度は北郷の幼稚園と小学校との繋ぎ、子ども達、幼児期の教育保育と小学校教育が円滑に接続することが出来るように、保育所の先生方とか小学校の先生方、意見交換をして事例研究をしながら進めていくことにしております。今年度、来年度の２ヵ年で、今年度北郷をモデル地区として、来年度は日南市全体に広げていくような活動をしていきたいと考えております。

日南市立小中学校における働き方改革につきましては、基本方針として教職員の長時間業務解消への対策の推進ということで、重点取り組み事項を教諭及び教頭の時間外業務時間が１月につき８０時間以上の方を０とする取り組みを推進するということで、一応目標を小学校、教諭を４０時間以上８０時間というのを５％以内、８０時間以上は０で、教頭先生が４５時間以上８０時間未満を２０％以内、８０時間以上を０、中学校においては、教諭等は４５時間以上を４０％以内で８０時間以上を０、教頭先生は４５時間以上を３０％以内、８０時間未満を０ということも数値目標を掲げて取り組んでおります。

働き方改革プロジェクト委員会を立ち上げておりまして、夏休み夏季休業期間に時差勤務、フレックスタイムを導入いたしまして、取り組んでおります。令和４年度の実績といたしましては、３年度と比べると数値目標までは達していないんですけど、確実に少なくはなっているところです。今年度も夏季休業期間についてはまたフレックスタイムを導入していきたいと思っております。

というような取り組みを今しておりますので、それについて話し合いをしていただけといいかなと思います。

【都甲教育長】

非常に部長が丁寧な説明をしてくれてですね、もう本番みたいな形で説明してくれたんですけど、なぜ今日お話しさせてもらったかというと、この総合教育会議は市長部局がやるんですね。市長が進行しまして、皆さん、それから担当の部長も来ると思うんですけど、教育委員さんとの意見を交換しながら市長として今後自分がどうしていきたいとか、そういう参考にしたいっていうような意見、出してもらったらですね。幼保小出ましたけど、ざっくりってやっぱ子育て支援についてですね、大きく言えばそういうことになるのかな。

働き方改革については、先生方は取り組んでるけどその進捗状況をやっぱり市長も交えて確認しながら、どんな形で今後進めていったらいいのか、それこそＰＴＡとかの団体の関係も出てくるし、ご理解をいただかないといかんこともありますし、そういうのは何かいい意見がお互いに出ればなあってことで、今日前もって話しておいて、準備をしてもらおうかと思ったところでした。

１３ 閉会